



一般社団法人（非営利）アジア自立支援機構（GIAPSA）

## 2019 年度事業報告

（期間：2019 年 4 月 1 日—2020 年 3 月 31 日）

## 目次

	頁
1. 2019 年度の活動の概要と展望	3
2. 2019 年度目標と重点活動	3-4
3. 2019 年度に実施した事業の詳細	4
3.1. タイ北部メエーチャンタイ村における村民の自助努力 によるコーヒーを中心とした農業生産組合支援事業	4-6
3.2. カンボジア北部における自活の為の小規模農民グループ 支援事業	6
3.3. バングラデシュにおける小規模農民グループ支援	7
3.4. タイ南部のサゴヤシ林の保全と研究活動	7-8
3.5. その他の活動	8-10
4. 法人の組織や管理運営能力の強化に対する取り組み	10
5. 法人の財源や活動資金に関する報告	10-11

## 1. 2019年度の活動の概要と展望

2019年度はアジア自立支援機構にとり、実質的な活動を始動した充実した年であった。設立したばかりの法人が外部からの活動資金を確保することは困難であったが、活動の実績なしにして将来の外部資金の獲得は難しい、という判断から、自己資金や法人関係者からのご支援・ご寄付を頼りに活動資金を確保し、当初目標にしていた活動にほぼ等しい量と質の活動が可能になり、一部で新型コロナウイルスの影響で活動に遅れをきたしたが、当初予定していた2019年度の活動目標をほぼ達成できた。又、限られた予算を活動経費として最大限に有効に使うために、人件費やその他の固定費への支出を避け、できるだけ多くの予算が受益者たちに直接届くように考慮した。2020年度は、官民のNGO支援基金やCSRに対する申請を積極的に行い、外部資金の獲得に努力する所存である。他方、学識豊かで、経験豊富な2人の理事と2人の非常任理事に就任していただき、法人として心強いサポート体制を確立することができた。又、会計業務においては、2019年度会計報告から坂本税理士に法人の会計業務を引き受けていただき、法人として会計や税務処理上の能力や信頼性を身に付けることが可能になった。2020年度の更なる飛躍を目指したいと思う。

## 2. 2019年度の目標と重点活動計画

2019年度は当法人（GIAPSA）にとり、その目的や趣旨を実際の活動として実践・実施する最初の年になった。法人の定款で定める9つのすべての事業を最初から手掛けるのは無理があり、それ故、いくつかの優先的重点活動を選択し、そのうち主として4つの事業（予算総額350万円）を重点活動として計画を立てた。その内訳は：

- A) タイ、チェンライ県メーチャンタイ村（貧しい山岳少数民族アカ族の村）における村民達の自助努力によるコーヒー生産や加工を中心とした生産組合発足の為の支援と持続可能な村民の収入増加や生活レベル向上支援事業；
- B) カンボジア北部（シムリープの北）の貧しい村の農民たちの自発と自助努力による農業生産グループの形成と運営、収入増加・貧困解消の為の支援事業；
- C) バングラデシュにおける小規模農民達への支援活動（現地のNGOのSSSを支援）；
- D) タイ南部のナコンシタマラートやトラング地域に生育し、その数が急速に減少している環境作物であるサゴヤシの保全と有効利用を推進する事業。

上記以外に、新しいプロジェクトの発掘調査や立案、若者に対するグローバル人材の育成支援、大学における開発教育やSDGsに関する講義や講演、国際NGOや政府機関に対する技術アドバイス、マスコミを通じた啓蒙活動などを当初の予定とした。2019年度の活動

計画（2018年度作成）に関しては当法人のホームページに掲載してあるのでご参考にしていただきたい。

### 3. 2019年度に実施した事業の詳細

#### 3.1. タイ、チェンライ県メーチャンタイ村（貧しい山岳少数民族アカ族の村）における持続可能な村民達の自助努力支援事業

2018年に始まった事業案の作成は、チェンマイに本部を置く国際NGOのAIPP(アジア先住民族支援機構)やIMPECT(タイ山岳民族連絡協議会)の協力により、3度の現地調査とメーチャンタイ村リーダー達との数度の協議の末事業案が完成・合意に至り、2019年7月29日にチェンマイで合意書に調印し、2019年8月1日に3年間の事業の開始に至った。総事業費約380万円のうち、2019年度はGIAPSAから約230万円を拠出し、残りを村の受益者が現物供与及び加工場建設の労働賃として負担した。GIAPSAからの資金は主としてコーヒーの加工を中心とする農産物加工場の建設資材の購入、設置される加工や包装機械・器具類の購入資金、そして村民たちに対するコーヒー栽培や加工販売などのセミナー開催の費用に使われた(詳細は事業収支報告参照)。この事業は村の青年たちが中心に自主的に設立されたメーチャンタイ村コミュニティ事業組合のコーヒーの共同加工とメーチャンタイコーヒーのブランド化を中心とする村おこし運動を支援するもので、自然環境に調和した栽培や加工技術の改善によりコーヒーなどの農産物の質と市場価値を高め、村民の収入と若者を中心とした雇用の向上、環境保全、そして生活レベルの改善を図るものである。この事業に対する2019年度の主な活動の詳細は以下である。

- 2019年7月:GIAPSA代表理事とメーチャンタイ村コミュニティ事業組合長との間で3年間のプロジェクト合意書が調印された。合意したプロジェクトの要旨(英文)は以下である。

#### Project Summary

<b>Project Symbol:</b>	<b>GIASPA/2019/01</b>
<b>Project title:</b>	<b>Community Based Sustainable Livelihood Development in Mae Chan Tai Village</b>
<b>Project Venue:</b>	<b>Tha Kor S.-District, Mae Suai District, Chiang Rai Province, Thailand</b>
<b>Starting Date:</b>	<b>1 August 2019</b>
<b>Duration:</b>	<b>3 years</b>

**Executing Agency:** Mae Chan Tai Community Enterprise (MCT-CE)  
**Donor Agency:** General Incorporated Association for the Promotion of Self-reliance in Asia (GIAPSA)  
**Supporting Agency:** Inter Mountain Peoples Education and Culture in Thailand (IMPECT)

**Total Budget:** Thai Baht 1,137,500  
**(Donor contribution:** Thai baht 696,000)  
**(Counterpart:** Thai baht 441,500)

Thailand has achieved a remarkable economic growth in recent past. However, the bottom 10% of the population is still suffering from poverty, primarily with a lack of sufficient income and employment opportunities. Out of several disadvantaged groups who are suffering from poverty, indigenous people living in the mountainous hill areas constitute one of the largest poverty groups in Thailand and Southeast Asia. Without targeting to support these poor hill tribes, the goal of poverty eradication (towards achieving 0 %); one of the most important Sustainable Development Goals (SDGs), would never been achieved. This project, therefore, is aimed at to building up a self-help capacity of indigenous communities in Thailand and establish a replicable model which would serve as a model for community based sustainable livelihood development of mountain villages in Thailand and beyond. More specifically, the immediate objective of the project is to improve the livelihood of the villagers in Mae Chan Tai village through the promotion of community-based enterprise for quality coffee production, processing and marketing, and enhancing their income, employment and living conditions.

- 2019年8月、GIAPSAから建設資材が提供され、メーチャンタイ村の村民達により農産物加工場の建設が開始された。
- 2019年10月に第一回 Project Steering Committee Meeting が現地メーチャンタイ村で開かれ、事業趣旨や年次事業計画の説明と合意などが話し合われた。この会議には当事者のほか、IMPECT(タイ山岳民族連絡協議会)代表、マエスアイ郡役場代表、ロイヤルプロジェクト財団地域部長、農業組合省高地農業研究所(HRDI)代表などをアドバイザーとして招待し、地方政府や地域組織との関係の強化や地域をあげたプロジェクトに対する支援体制の確立を目指した。

- 2019年12月、マーチャンタイのコーヒー栽培農民に対するコーヒーの栽培、加工、販売等に関する2日間のセミナーを高地農業開発研究所(HRDI)専門家の協力のもとでマーチャンタイ村で実施し、女性を含め延べ40人以上の参加者があった。
- 2019年12月、農産物加工場の建設が完了し、12月29日に開所式が行われた。GIAPSA代表理事や関係者が日本から招待され開所式に参加した。
- 2020年2月、3月、農産物加工場に設置するコーヒー豆の脱穀機、真空包装機等の購入と設置を完了し、コーヒー豆の共同加工に実施に寄与した。

### 3.2. カンボジア北部（シアムリープの北）の貧しい村の農民たちの自発と自助努力による農業生産グループの形成と運営に対する援助と収入増加・貧困解消の為の支援事業

- 2019年6月、GIAPSA代表理事が技術顧問を務めるアジア村落開発支援ネットワーク(ASIADHRRA)の協力で、カンボジア・シアムリープ県、バンテアイスレイ郡（アンコールワットの北東へ100キロほどの地域）の貧しい農民達が団結して形成された農業協同組合の自活・持続可能な発展に向けた取り組みを支援する目的で、養鶏農家互助グループに対して養鶏や鶏卵生産資機材を有償・無利息で提供し、返済された資金を組合の回転基金として再利用して将来他の受益者たちに支援の輪が広がることを目的とする事業案の作成に着手した。
- 2020年1月、プロジェクト計画案の最終的な詰めの為現地を訪問し、現地NGOのCamboDHARRAや受益者である農民達と協議を実施した。この地域では小口金融等に関する理解や、受益者たちが受けとった資金を無利息で返済する制度等の経験がないため、農民達の理解を得るのに多くの時間を要した。とりあえず理解を示したグループを対象にGIAPSAの独自予算で小規模に(総額約60万円、受益者数6人)パイロット事業を開始し、将来、外部資金獲得の可能性も含めて規模を少しずつ拡大するという方向で合意した。新型コロナウイルスの蔓延で事業合意書の作成が遅れているが、2020年7月頃には最終的な事業合意書に調印する予定である。

### 3.2. バングラデシュにおける小規模農民グループ支援

- 一般社団法人シェア・ザ・プラネットの技術顧問としてバングラデシュ北部を訪問

した。その時に、現地 NGO の SSS のブンヤン会長と協議し、バングラデシュ北部の子供たちの栄養失調の改善と貧しい農民達の収入増加を目的にインドやキプロス方面から乳生産用のヤギを輸入して農民達に配分することで意見が一致し、GIAPSA はそれに対して技術的、財政的な支援する方向で模索してきた。ヤギは牛と違い値段が安く、繁殖力が強く、病気等による損失も少なく、多いものでは1日に2-3リットルのミルクを生産し、小規模農家を支援する事業として適していると考えられる。その後、ブンヤン氏の健康状態が原因したことや連絡が取りにくい事情もあり、事業案作成の進展が遅れた。他方、ブンヤン氏は SSS の独自予算で既に乳用ヤギの買い付けをインドから行っているという情報もあり、もしそうであればポジティブな進展である。こうしたことも含めて、2020年3月にバングラデシュの現地を訪問し新たに協議する予定でいたが、新型コロナウイルスの蔓延で訪問が延期になり、この事業案は2020年度8月以降に再度検討する予定である。

#### 3.4. タイ南部のサゴヤシ林の保全と研究活動

- 近年までタイ南部の農耕に適さない湿地帯にはサゴヤシ林が多く存在し、サゴヤシは地域の小規模農民達のデンプン採取による食用利用、葉を屋根材として売ることによる農民の収入の確保、地域の環境保全や植物多様性の保持、伝統的な地域文化の維持などに貢献してきたが、近年、油ヤシや天然ゴム栽培の急速な拡大に影響されて数を急速に減らし、タイ南部では絶滅の危機に立たされている。タイ南部のトラングにあるサゴヤシ保護の先駆的現地 NGO であるヤドホン協会はサゴヤシ保護や有効活用の活動を長年続けて来たが、会長ご夫妻の老齢化に伴い活動を停止した。
- こうした事情を考慮し、2019年11月、タイにおけるサゴヤシの有数な生植地の一つであるナコンシタマラート県を訪問し、現地の Rajabhat 大学と Rajamangala 大学とサゴヤシ専門家の Nipon 氏と共にサゴヤシの保全や研究に関する協議や新しい共同プロジェクトの可能性を探る事前調査を行った。この地域ではサゴヤシ林は過去10年間に4分の1にまで減少したといわれる。基本的にはサゴヤシの経済効果が一番高いと思われる屋根材としての葉の栽培を中心としたサゴヤシ生産試験圃場を設立し、農民にとりどれだけ収益に結び付くか実地試験とデモンストレーションを行うということで大筋な合意をした。
- 2019年12月に再度現地を訪問し、ナコンシタマラート県トンソング郡カバング村の農民サトジャ氏と GIAPSA はサトジャ氏が所有する1000m<sup>2</sup>の湿地でサゴヤ

シの計画栽培と屋根材用の葉の生産と経済効果の圃場試験を行うことに合意した。

- 2020年1月に、試験圃場の整備と区画の確定を Rajamangala University of Thechnology Srivijaya の協力のもとで実施した。最終的には1000m<sup>2</sup>の長方形の試験農地に3メートルの間隔をあけ100-120本のサゴヤシの苗木を雨期に入る5月から6月に植林することで合意し、翌月の2月末に再度現地を訪れ、圃場デザインの確認と圃場試験の準備の進行具合を視察した。。

### 3.5. その他の活動

上記のプロジェクト（事業）ベースの活動以外に新しいプロジェクトの発掘調査や立案、若者に対するグローバル人材の育成支援、大学における講義や講演、国際 NGO や政府機関に対する技術アドバイス、SDGs や世界の貧困・飢餓・格差問題等に対する啓蒙活動などを実施した。詳細は以下である。

- 持続可能な科学技術統合国際会議の企画委員の一人として、2019年5月(中国 Songyang)での有機農業に関する国際会議の開催準備への支援や会議での基調講演・司会等々を行った。
- 2019年5月、GIAPSA は共同通信社の取材に協力して、将来タイと日本の間で共同認証が行われる予定の GI(地理的表示保護)認定農産物のドイチャンコーヒーとウタラディトバイナップルの産地を訪問した。
- アジアの村落開発を支援する国際 NGO の AsiaDHRRRA の上級顧問として、継続して技術アドバイスの提供や定例会議への参加を行った(2019年6月ベトナム、ハノイ)。
- 中国の南京財政経済大学に招待され、学生達に世界の農業や食料安全保障の将来に対して講演を行った (2019年6月)。
- 2019年9月、GIAPSA は明治大学農学部夏季短期研修プログラムに協力してバンコク近郊の農民達の利益と技術移転を優先した安全で質の高い有機野菜生産の契約栽培モデル的存在のスィフトカンパニーの本社と、加工場、契約栽培農家を案内した。



- ミヤンマーのイラワディデルタのマングローブ植林事業の事前調査でミヤンマーを訪問し現地の NGO や関係者と可能性を協議した(2019 年 7 月)。結果的にカウンターパートとなるミヤンマー側 NGO の協力に限界があり、この事業案は廃案になった。
- 2019 年 9 月、タマサート大学ランシットキャンパスにて、山梨県の都留文科大学の短期留学生達と青山学院大学の留学生に対して、世界の共通目標 (SDG s) や 2050 年に向けた世界の重要課題、国連の役割などについて講演を行った。
- IUCN の案内で Samut Songkram Bang Kaeo 村 (バンコクから約 80 km) のマングローブ・リハビリテーション事業を視察し、将来の GIAPSA の事業支援の可能性について調査した(2019 年 10 月)。この地域はすでに多くの NGO やドナーがマングローブの植林事業を行っており、法人の事業として別の地域を探すことで合意した。
- 2019 年 10 月、タイ、バンコクのチュラロンコン大学にて教育機関と民間セクターが協力してタイにおける食品ロス削減の為のプロジェクトを立ち上げるための準備委員会のブレイクアウト会議が開催され、GIAPSA は正式メンバー (アドバイザー) として委員会に加わった。この会議で GIAPSA の代表理事は世界やアジアの食糧安全保障問題や食品ロス問題に関して要請に基づいて約 1 時間の基調講演を行った。
- GIAPSA 代表理事はタイ国立シーナカリンウイロート大学経済学部の客員教授として、SDG s や環境問題、グローバル課題に対する理解の向上を目指して、受講した学生達に対して講義(週 3 時間 x 13 週)や学生に対するアドバイスを行った (タイ、バンコク、2019 年 8 月ー2020 年 1 月)。
- 2020 年 1 月、都市部に住む若者とメーチャンタイ村(高度 1400 メートルの山岳地域に位置し、道が悪く電気がまだ引かれていない)の村民たちとの交流の促進や若者を中心とするグローバル人材育成を目的として、2 泊 3 日のメーチャンタイ村におけるコーヒー豆摘み取りボランティアツアーを GIAPSA がタイ国立シーナカリンウイロート大学経済学部の協力のもとで実施した (経費は GIAPSA 活動資金から全額負担)。バンコク在住のタイ人や日本人の社会人や大学生、及び引率教員 2 人を含む 20 人の参加者があった。ほとんど全員の参加者がこのボランティアツアーに感激し、厳しい環境での少数山岳民族の生活や実際のコーヒー豆の摘み取りを経験した有意義な体験を得たことに感謝した。毎年同様な企画を継続したい。

- フィリピン大学の大学の国際化やそれに対応する職員達の人材育成ワークショップに GIAPSA の代表理事が招待され世界の重要課題や直面する問題、若者の人材育成の重要性などに関して基調講演を行った(2019年11月)。
- GIAPSA 代表理事は中国安徽省で開かれた第 8 回持続可能な発展への研究と技術の統合国際会議（参加者約 20 か国から 300 名）に招待され、基調講演と技術分科会の座長を務めた（2019年11月）。
- 新聞のコラム（GIAPSA 代表理事はコラムニストとして毎月、新潟日報に執筆中）やマスメディアを通じて、貧困、飢餓、格差、環境等のグローバル課題について啓蒙活動を行った(2019年4月ー2020年3月の毎月)。

#### 4. 法人の管理能力強化に対する取り組み

- 4.1. 法人業務の円滑な活動と管理能力を向上するために、茨城県つくば市の法人の本部に加えて、タイ王国バンコク市にアジア拠点を開設した(2019年4月)。
- 4.2. ご本人の承諾を得て、法人の理事に  
野口良造 筑波大学准教授 筑波大学院生命環境科学研究科  
筒井哲朗 代表理事 一般社団法人シェア・ザ・プラネット  
(元シャプラニール=市民による海外協力の会事務局長)

非常任理事に

加藤久和 明治大学政治経済学部教授

八丁信正 近畿大学農学部教授 に就任していただいた。

#### 5. 法人の財政や資金に関する報告

- 5.1. 2019年度は法人の活動の実質的初年度にあたり、活動資金は法人関係者からの入会費や寄付等により確保した。2018年度からの累計の寄付金の合計は3,403,000円で、社員年会費の合計は40,000円であった。2019年度の活動資金のほとんどは、この寄付金で賄われた。詳細な会計報告は別紙参照。

- 5.2. 2020年度は初年度の経験と実績にもとずき、外務省や国際協力機構、その他官民団体の基金やCSR資金に積極的に応募し、より多くの財源が確保できるよう努力する予定である。